

緊急出版 = 4月14日刊

4月22日、広島高裁で注目の判決公判！

# 光市事件 弁護団は何を立証したのか

光市事件弁護団 編著 四六判152ページ 定価1300円 + 税

ISBN978-4-7554-0188-6

4月22日に迫った差戻控訴審判決を前に、マスメディアの総攻撃に抗して、21人の弁護団が明かす裁判の真実。  
付・被告少年の謝罪の手紙。

少年による不幸にして偶発的な事件を、検察官は凶悪な強姦・殺人事件としてねつ造した。差戻審弁護団は、真相を究明し、公正な裁判を求め、被告人の権利を擁護し、裁判を受ける機会、そして真に反省と悔悟をする機会を保障しようとして努力している。また弁護団は、この少年に対する検察官、最高裁の不正なやり方に憤り、一、二審、最高裁の如何ともしがたい怠慢に危機感を募らせている。司法は制度疲労の中であって、危機的な状態にある。その21人の弁護人に対するバッシングは、検察官の事実のねつ造や最高裁の手抜きが誘引したものだ。このようなバッシングは、司法が司法としての職責をしっかりと果たすことによってしか是正することができない。

## 主要目次

- 1部 光市事件の概要 光市事件 検察・裁判所の主張 安田好弘
  - 2部 光市事件弁護団に聞く 司会・コーディネーター＝小林修・湯山孝弘
    - 1、被告人の供述を中心として 井上明彦・山崎吉男・足立修一
    - 2、どのような殺害行為だったのか 法医学鑑定をめぐって  
新谷桂・松井武・新川登茂宣・河井匡秀
    - 3、犯行の計画性はあったか 大河内秀明・村上満宏・石塚伸一
    - 4、この事件の情状について 岩井信・本田兆司・山田延廣・岡田基志
  - 3部 司法の職責放棄が招いた弁護士バッシング 安田好弘
- 弁護人の最終意見陳述 被告人の謝罪の手紙 光市事件の経過



〒113-0033 東京都文京区本郷2-5-11  
03-3818-7576 fax03-3818-8676

インパクト出版会